

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書（終了）

1. 研究課題

（和文）雲岡石窟の研究

（英文）A STUDY OF THE YUN-GANG BUDDHIST CAVE-TEMPLES

2. 研究代表者氏名

岡村秀典

3. 研究期間

2013年04月 - 2015年03月（2年度目）

4. 研究目的

中国山西省大同市に所在する雲岡石窟は、北魏時代の460年ごろに都平城の西郊で開鑿のはじまった仏教寺院である。中国最初の大規模な石窟で、大小140あまりの石窟が東西1kmにわたってひろがっている。本研究所の前身である東方文化研究所は1938～1944年の7次にわたってこれを悉皆調査し、記録にとどめた写真・実測図・拓本などは数万点におよぶ。その調査報告書である水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全16巻32冊（1951-56年）は、いまなお中国の初期仏教文化を考えるバイブルとして評価されているが、出版から半世紀あまりたち、その後の研究成果をふまえて再検討する必要がでてきたため、本研究所と中国社会科学院考古研究所との共同編集により『雲岡石窟』中国語版と旧版未収録の写真・拓本類を集めた『雲岡石窟』別巻の公刊が計画されるにいたった。これを遂行するため、当研究班では、写真・拓本類の整理を進めるとともに、中国南北朝時代の仏教寺院にかんする総合的な共同研究を推進しようとするものである。

6. 研究成果の概要

東方文化研究所が1938～1944年に調査した中国山西省雲岡石窟について、中国社会科学院考古研究所との共同編集により『雲岡石窟』全20巻41冊を中国の科学出版社から日中両国で3期に分けて刊行することになり、水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全16巻33冊（1951～1956年）報告書未収録の写真や拓本を整理するとともに、以後の研究成果をふまえた研究会を実施した。第1期（第1巻～第7巻）日本語版は2013年12月、中国語版は2014年3月に出版され、第2期（第8巻～第16巻）の日本語版は2014年12月に刊行、中国語版も2015年中に出版される予定で、新編集の第3期（第17巻～第20巻）は2015年3月に投稿し、2015年度中に出版の予定である。また、中国における最新の発掘調査について意見交換をおこなうため、2013年度に2回、2014年度に1回、中国人研究者を招聘し、国際シンポジウム「雲岡石窟研究の現在」を開催した。

8. 共同研究会に関連した公表実績

共同研究会に関連した公表実績 岡村秀典総監修（京都大学人文科学研究所・中国社会科学院考古研究所監修）『雲岡石窟』第一期（全7巻15冊）2013年12月15日、科学出版社東京（中国語版、2014年3月、科学出版社）、第二期（全9巻18冊）2014年12月15日、科学出版社東京

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究成果公表計画および今後の展開等 岡村秀典の総監修で、京大人文研と中国社会科学院考古研究所との共同編集による『雲岡石窟』全20巻41冊を中国の科学出版社から日中両国で3期に分けて刊行しており、残る第2期（第8巻～第16巻）の中国語版は2015年中の出版予定で、新たに編集する第3期（第17巻～第20巻）は2015年3月に出稿し、日本語版は2015年度、中国語版は2016年度に出版の予定である。